
気分屋魔術師 [幼少期編]

及川

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気分屋魔術師 「幼少期編」

【コード】

N0290Z

【作者名】

及川

【あらすじ】

この世界には魔法が存在する。

0話 11の世界について(前書き)

レイアウト等、投稿してから気付く事も多いと思うので、手直しは多く入ると思います。

不定期更新で、のんびりやっていければいいなと考えています。

0話 この世界について

この世界には「人族」「エルフ族」そして、「精霊」と「魔物」が存在します。

まずは人とエルフ。

人とエルフは生活領土が分かれており、どちらも王政をとっていません。

もちろん移住などは可能です。

二種族の違いは、見た目の違いくらいでしょうか。

エルフの方が少し耳が尖っているのが特徴でしょう。

言語、通貨などは統一されており、不便はありません。

次に精霊。

精霊は、いたるところに存在しますが、目には映りません。

世界の概念となっていていとも言いましようか。

手で触れたり、干渉することができない。それが精霊。

人とエルフの中には、精霊と交感することができます。

そのような者たちは多く居ません。ほんの一部です。

その一部の者達は精霊に呼びかけることで、魔法を扱うことができます。

魔法の威力、効果などは扱う人により異なります。

人よりもエルフの方が精霊との交感を得意とする者が多くいます。

フォローを入れると、人はエルフよりも剣の扱いに長けている者が多いです。

最後に魔物。

魔物は様々な動物のことを指します。

おとなしい魔物、凶暴な魔物、すべて包めて「魔物」です。

人やエルフは生きるために狩りをします。
そんなとき、どんなにおとなしい動物でも抵抗することでしょう。
なので、一括り。

簡単にはありますが、これがこの世界の常識。

0話 この世界について（後書き）

読んでいただきありがとうございます。
感想等、お待ちしております。

1話 0歳 生まれた時から特別な

「この子を、頼みますね」
声が響いてきた。

それは、僕が生まれる直前のこと。

両親の声でも、産婆の声でもない。

初めて聞く声だったが、それはとても心地よく、
意味も理解できる不思議なものだった。

次に僕の両親の声

「母さん、よく頑張った！ハハツ、可愛い男の子だ！」

父は興奮した様子で、母はホッとした表情をしていた。

「ん！？母さん！アリアの手の甲に何かが…これは…痣？」

「はあ…はあ…アリア…良い名前ね…大丈夫よアナタ…その子はきつと…精霊様の祝福を…受けたんだわ…」

「精霊の祝福？それは…？」

父は続きを待った。

「声がね…聞こえたのよ…」

「声？」

「そう、声…アリアに何かを、頼んでみたいね…」

「精霊が！？…。さすがは私たちの子つてところか。将来が楽しみだな、母さん」

「もう、アナタったら」

二人は暖かな表情で、元気に泣くアリアを見つめるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0290z/>

気分屋魔術師 [幼少期編]

2011年12月1日01時47分発行